

旭川の外は雨で、ホテルから見える旭川駅前にはタクシー待ちの人でいっぱいになっていた。こんな時は、やっぱり駅のホテルは良いとつくづく感じた。チェックアウトすると、直ぐに列車が待っているからだ。タクシーを待っている人の中に旭山動物園にリスやトラの動物を見に行く、リストラされたサラリーマンらしき人も見えた。そして、リスやトラは今日も動物園からリストラされないようにと一生懸命芸をすと思った。

今日は石北本線に乗るが、一旦、奈井江駅まで往復し、滝川駅発 8:05 の富良野行きに乗る。奈井江「ないえ」駅まで乗るのは、“ないよりマシ”ではなく、“乗らないより乗る方がマシ”からである。

ここでも、「青春18きっぷ」の最大の特権である乗り放題をするのである。

滝川駅から根室駅までは根室本線であり、函館本線の函館駅 - 旭川駅までの直線距離 423.1 Km よりは長く、443.8 Km と北海道で1番長い線である。

滝川駅を出ると、かつての炭坑の町であった赤平駅、芦別駅と停車するが、次第に乗客が少なくなり、寂しさを増して来る。

九州の筑豊本線に乗っている錯覚さえ覚え、石炭の町の結末を見た気になり、“黒いダイヤ”ならぬ“不便なダイヤ”に替わっていた。

かつては多くの乗客が利用しており、駅の大きさと乗客の少なさにはアンバランスが感じられた。4人掛のボックスシートは、いつの間にか前の座席に足を乗せ鈍行の旅本来のスタイルになる。このスタイルが「青春18きっぷ族」の憧れであり、最高の指定席でもあった。

途中の野花南「のかなん」駅は、普通は「のかみなみ」と呼ぶがここでは違っていた。野花南「のかなん」駅を南下すると、前回全線踏破時に滝里と言う駅があったはずであるが廃止になっていた。

ダム工事により、平成3年に新線に切り替わり水没したのである。

JR 東日本にある吾妻線の川原湯温泉駅も、こんな運命を辿るかと思うと悲しくなった。

ここでも皮肉の回文を思い出し、

「うかつにダムを引く国費をムダに使う」であり、

「うかつにだむをひくこくひをむだにつかう」を言いたかった。

富良野駅に着いたが、以前に来た時は“北海道のへそ”を見る為に近くの学校に立っている“北海道の中心”を表す石碑を見に行っただけを思い出した。

加古川線に「日本へそ公園駅」があったことを思い出し、今度、富良野駅名を改称するとすれば、「北海道へそ公園駅」を望みたいが、富良野には「へそ」より「ラベンダー」が似合っていた。

因みに、新得駅前には“北海道の重心”と言う表示があり初めて知る。

富良野駅から、富良野駅 - 新得駅の未乗区間に乗る必要があり「快速 狩勝」で新得駅を目指した。